

夏休み特別工作プログラム

(担当：市民協働推進部地域コミュニティ課是政文化センター)

事業の背景・目的

新型コロナウイルス感染症により、プールの閉鎖など夏休みに子どもが遊ぶ場所が減少しているため、子どもの居場所作りとして行っている。また、児童館に来館する子どもの多くは、スイッチなどのゲームをしており、子どもたちに工作の楽しさを感じてもらうことや工作を通して考える力を身に付けることを目的にしている。

事業の概要

小中学校の夏休み期間中、夏休み特別工作プログラムと称して、普段の児童館では作れない特別な工作を行っている。週5日（月～金）、午後2時～5時まで、是政文化センター1階のゆうぎ室で開催している。費用は無料になり、対象は小学生である。

【工作の内容】

- ・スノードーム、砂絵、木工パチンコゲーム作り、卵パックの風鈴などである。
- ・工作の材料については、ペットボトル、卵パックなど日常生活で使用するものを多く使っている。

【事業の実施方法】

1 職員体制

府中市の直営であり、児童館指導員2名、府中市職員2名で実施している。

2 受付方法

新型コロナウイルス感染症予防のため、定員を設け、時間を区切って行っている。夏休み特別工作の当日、プログラム開始の20分前からゆうぎ室で整理券を配布する。整理券がなくなり次第、受付を終了とする。

3 その他

・消毒方法

参加者が使用した物については、使った物入れに入れてもらい、消毒を行う。使用した座席、机についても、次の参加者が座る前に消毒を行う。

工夫点・留意点

【工夫点】

・木を使った工作を行い、釘打ちやのこぎりを使うなど普段家では行わないことを体験させるようにした。

【留意点】

・人気の工作は1時間前から並び始めるため、ソーシャルディスタンスを確保しながらの整備が難しかった。そのため、ゆうぎ室を早めに開け、待機している児童が少なくなるように対応した。

事業の効果

普段、児童館に来ない子供たちも来館し、参加者は楽しそうに工作を行っていた。親子でくる参加者も多く、親子で楽しめる機会を提供できた。工作を作り終わると、「出来た」という達成感があるようで、とても満足した表情で帰っていった。

【制作の様子】



【作品】



課題・今後の展開

【課題】

・来館者が想定より多く、工作をできずに帰っている児童も多くいた。人気があった工作については、材料を今年度より多く準備し、たくさんの児童に工作をできるようにする。

【今後の展開】

・新型コロナウイルス感染症予防のため、圏域の小学校にのみ児童館だよりを配布し、広報を行っている。新型コロナウイルス感染症が収束したら、インターネットなどを使い、府中市広域に広報を行い、より多くの児童に参加してもらう。